



フォレス



風雅



伝統あるスダレに 現代風アレンジ

井上スダレ株式会社

材料の特性を知りつくした 多彩な技術とデザインカ

井上スダレは大正5年の創業以来、伝統的な竹製スダレをはじめ、木製スダレ、インテリアスダレ、神社仏閣用の御簾（みす）の製造等を請け負い、その数は現在200種類を超えるという。

「スダレの歴史をひもとくと、1000年以上前の源氏物語の時代にさかのぼります。日本古来の伝統工芸品ですが、そこに現代風のアレンジを加えた製品が多いのが、当社の自慢です」と語る井上智史社長。古来より伝わる編み方を取り入れた御簾のほか、ひご作りから編み上げまですべて手作業で製作する亀甲簾は、四国八十八か所一番札所「霊仙寺」をはじめ、各地の有名な神社に多数奉納している。一般家庭用のスダレは自社で開発した機械で製

造している。

同社では細い竹ひごで編んだもの、竹と木を組み合わせたもの、木だけで作るもの等、それぞれの材料の特性を活かした製品作りを力を入れている。特に神社仏閣用には国産の真竹を使用、節が低い中国産の孟宗竹は家庭用と使い分けている。難しいとされる竹製スダレの防炎加工にも成功している。

また木製品には反ってしまう難点があるが、長期間の使用でも反らない自社の特許技術を加え、製品化に成功した。木目が浮き出るものや色のグラデーション、ほのかに差し込む明かりを楽しめるもの等、デザインも多彩だ。

「匂わない、かびない」時代の先行く伝統工芸品

同社のもう一つの柱となっているのが、給水・給湯用継手の内面樹脂加工・粉体塗装部品の製造。スダレとは別分野になるが、ものづくりという面では、なんら変わることはないという。

近年は軽くて丈夫なスーパーエンブレを使用したオール樹脂製の給湯給水用ワンタッチ継手を2年間ついやして共同開発、国内外に販路を拡大している。部品製作の機械も自社で製造し、部品に至っては100分の3mm以内の精度で仕上げるといふ。最新の設備の導入と、目視検査の両面で完全な製品を提供しているのだ。

「時代の一步も二歩も先をいく発想が必要」と井上社長はいう。伝統工芸品でその形に大きな変化がな

いように見えるスダレにも、実は時代の先を読む力が必要なのだ。現在、室内用では匂いが出ないもの、屋外用ではかびない耐水性の高い製品の開発を進めている。「開発は足を止めてはいけない」との言葉に、業界トップを走る同社ならではの姿勢がうかがえる。

スダレも水道管継手も、顧客からの要望を待つこととはしない。常に先を読み、喜ばれそうなものを次々に考案していく、その提案力が同社の強みだといえる。

井上スダレ株式会社

Company Profile

住所 / 〒586-0086
大阪府河内長野市天野町1014-1
創業 / 大正5年3月
設立 / 昭和37年10月
資本金 / 1,080万円
従業員 / 67名 (平成21年1月現在)
TEL / 0721-53-2581
FAX / 0721-54-6506



<http://www.sudare.co.jp/>



井上智史さん
代表取締役社長

主な事業内容

木製スダレ・竹製スダレ・竹製売品の製造・販売（国内・国外用）、管継手防錆ライニングの電気機器の修理・販売、電気工事の請負等